



肝がんを予防しましょう

市立病院内科部長 布施建治

増えている肝がん

日本全国で肝がんによる死亡者数は、この25年間で3倍に増え、今では年間死亡者数は3万人を超えています。これは、がん死亡順位の第3位を占めています。

肝がんの90～95%には肝炎ウイルス感染がみられます。そのうち、B型肝炎ウイルス感染からの肝がんは、肝がん全体の10～15%であるのに対し、C型肝炎ウイルスからの肝がんは75～80%と多くを占めています。

肝がんの予防は

肝炎ウイルスに感染しないこと

したがって、肝がんの予防には、まず肝炎ウイルスに感染しないことが最重要です。これらのウイルスが発見されていいるところは、輸血などで感染す

ることがありますが、現在はほとんどありません。これらのウイルスは血液を介して感染しますので、肝炎ウイルスに感染している人の歯ブラシやひげそり（血液がついている可能性があるもの）を共有することはやめましょ

う。社会の影で行われている覚醒剤のまわし打ちや、入れ墨・はり治療で器具がじゅうぶん消毒されていない場合も感染する可能性があります。なお、

はり治療は自分専用の針や使い捨ての針を使えば、まったく問題ありません。また、極めて少数ですが、性行為によ

っても感染することがあります。不特定多数の異性と交渉しないことや、コンドームを装着する、ということによって防

ことができます。一般の日常生活ではまったく感染しませんので、よいいな心配はしないで

早期発見、早期治療が

何よりも重要

何より大切なことは、肝炎ウイルスに感染したことを早期に見つけることです。そのためには、市や職場が実施する健診を受ける機会があれば、ぜひ受けてください。

C型肝炎ウイルスに感染している場合、インターフェロン療法が有効な場

合が多いので、医療機関に受診してご相談ください。たとえこの治療でウイルスが消えなくても、発がん率は低下しているという結果が報告されています。また、肝底護劑（強力ネオミノフアーゲンC、ウルソ、小柴胡湯）などでGOT、GPT（肝細胞がこわれると血液中に流れ出してくる酵素）の値をコントロールすることにより発がんを抑制することもできます。

さらに、もし肝がんができたとしても、早く見つけて早く治療にかかるとができれば、治療の選択の幅も大きく、長期生存が期待できます。決して放置することなく、担当医のすすめに従って定期的な検査を受けるように心がけてください。

▼来月のテーマは「食品衛生（表示・添加物）」